

視察報告

相庭 和彦

2016年11月19日から24日までの日程で北京師範大学珠海校および北京師範大学附属南澳実験学校、北京師範大学惠州附属学校を訪問し、交流活動を行った。参加大学院生は12名、教員は8名であった。

スケジュールは以下のとおり。19日22時羽田空港集合、香港に向け出発。香港空港には20日朝到着し、フェリーにて珠海市九洲港に渡り、11時北京師範大学珠海校に到着した。午後北京師範大学大学院生と研究交流会を行った。21日マカオの世界遺産を見学、22日北京師範大学南澳実験学校交流授業研究会、23日北京師範大学惠州実験学校で交流授業研究会を行った。24日朝惠州市のホテルを出発し香港空港から帰国した。

交流内容は以下のとおりである。まず20日新潟大学と北京師範大学大学院学生の交流会について。新潟大学側からは新潟大学教職大学院の制度についての説明およびそこでどのようなことが学ばれているのかという報告を行った。北京師範大学側からは大学院生として教育実習に参加していくとどのような新たな視点が学習されるのかという報告がなされた。中国の大学院は教育理論研究が主で、実践研究が十分でない。その上、北京師範大学大学院と新潟大学教職大学院との交流自体が初めての試みであるために、交流内容をこのように設定した。

授業交流については院生3人ずつ3つのグループを作り、体育系の授業とグループ討議を中心とする授業を惠州実験学校と南澳実験学校で展開した。子どもたちの授業への参加態度は大変良く、両校の授業とも多くの教員が参加して大変盛況であった。特にグループワークを中心とした授業の展開中子どもたちの積極的な取り組みがなされていることに、机間巡視をした院生たちから「日本の子どもと何ら変わることはない子どもの様子」を学習できたとの感想が聞かれた。また日本のラジオ体操を紹介して、それを指導した院生からは中国の子どもの積極性をみとることができたという感想が聞かれた。授業終了後の検討会も50人以上の参加者があり、教育論、授業論など幅広い意見が出された。